

災害時の 子どもの心のケア

～東日本大震災で振り返る
緊急時の対応からその後の支援～



2025. 11. 6 木

時 間

13:00 ～ 16:30 予定 (開場 12:30)

参加無料

定員 170 名 (会場参加 : 70 名程度 / オンライン : 100 名程度)

実施方法

会場参加とオンラインのハイブリット開催

会場 : 双葉町産業交流センター大会議室 (〒979-1401 福島県双葉郡双葉町大字中野字高田 1-1)

開催概要

東日本大震災から 14 年が経過し、被災地では復旧・復興が進む一方、当時子どもだった世代が親となり、今もなお震災の心理的影響を抱えながら子育てに向き合っています。地域の居場所や子ども支援の形が変化するなか、新たな課題も浮かび上がっています。

本シンポジウムでは、岩手・宮城・福島の被災地で展開してきた支援について専門家や支援団体とともに共有し、世代を越えて続く心理的影響への理解を深めるとともに、地域一体となった支援のあり方や公的支援体制の役割を再確認し、これからの課題への対応策をともに探ります。震災から 14 年の今だからこそ、次の世代へつなぐ支援のあり方を考える場に、ぜひご参加ください。

参加対象

子ども・若者支援に携わる支援団体、企業、自治体（行政）や社会福祉協議会、地域コミュニティの方々
今後も東日本で活動する団体や、大規模災害が想定される地域で子どもの心のケアなどに取り組んでいる
方々、教育関係者の方々、地域にお住まいの方、一般の方のご参加もお待ちしております。

プログラム

- 開会挨拶
- 基調講演：東日本大震災 14 年の軌跡と現状・今後も被災地に残る課題（子どもの心のケア）
- 子どもの心のケアに関する各県の取り組み紹介（岩手・宮城・福島）
- パネルディスカッション：被災地の子どもの心のケアの今後に向けた意見交換
- 質疑・まとめ



※プログラムは変更になる場合がございます。あらかじめご了承下さい。

詳しくは裏面へ



本事業は令和 7 年度復興庁被災者支援コーディネート事業により実施しております。

【お問合せ】一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター
(担当：太田・加藤・梅森)

【電話番号】022-797-6708 【FAX】022-797-6788

【メールアドレス】info@michinoku-design.org

※当日のお電話でのお問い合わせは転送になるためお時間いただきますのでご承知おきください。

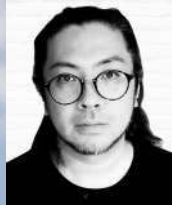
【主催】特定非営利活動法人いわて連携復興センター
一般社団法人みやぎ連携復興センター

一般社団法人ふくしま連携復興センター

一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター

【後援】岩手県、宮城県、福島県

宮城県 (20 分)



清水 冬樹氏

東北福祉大学総合福祉学部社会福祉学科准教授
一般社団法人東日本大震災子ども・若者支援センター理事

PROFILE

東洋大学大学院修士課程終了後、都内の児童養護施設に勤務。その後、北海道の保育者養成校で研究と教育に従事し 2020 年度より現職。専門は社会福祉学、子ども福祉。博士（社会福祉学）。小児期逆境体験（ACEs）を経験した子ども達が、自分ごととして自分の人生を歩むことができるために、地域・コミュニティによる支援のあり方を子どもの権利を基盤として研究。

福島県 (20 分)



前田 正治氏

一般社団法人福島県精神保健福祉協会ふくしま心のケアセンター所長

PROFILE

1984 年、久留米大学医学部卒業。2013 年より福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座・主任教授。災害精神医学、精神医学的リハビリテーションを専門とし、航空機墜落事故や潜水艦沈没事故などで被災者の精神保健調査・支援の責任者を務めた。2010 年から 3 年間、日本トラウマティック・ストレス学会会長を務め、現在は政府の犯罪被害者等施策推進会議専門委員、警察庁・消防庁の惨事ストレス対策アドバイザーを務める。

岩手県 (20 分)



八木 淳子氏

岩手医科大学医学部神経精神科学講座 教授 / 岩手医科大学附属病院児童精神科診療科部長 / 岩手医科大学いわてこどもケアセンター副センター長

PROFILE

岩手医科大学 医学部神経精神科学講座教授・附属病院児童精神科診療科部長・いわてこどもケアセンター副センター長。東日本大震災以前から岩手医科大学で児童精神医学・医療を实践しており、震災後は医療、教育、行政と連携しながら、被災地での子どものこころのケア・トラウマ治療を続けている。

取り組み紹介

14:10~15:10

子どもの心のケアに関する各県の取り組み紹介

宮城県 (20 分)



小林 純子氏

特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ代表理事 / 宮城県・仙台市社会的養護自立支援拠点事業コーディネーター / 災害子ども支援ネットワークみやぎ代表世話人 / みやぎのちと人権リソースセンター代表

PROFILE

米国デラウェア大学の NPO 研修参加を機に団体を設立、5 団体を運営しつつ、チャイルドラインの運営、子育て支援施設や児童館の指定管理、東日本大震災後の支援活動、宮城県・仙台市社会的養護関係委託事業などを行ってきた。宮城県・仙台市子ども・子育て会議委員・副委員長、宮城県青少年問題協議会委員、他委員等を歴任、子ども・若者の人権問題や支援についての提言、実践を行っている。

福島県 (20 分)



三浦 恵美里氏

特定非営利活動法人ビーンズふくしま ふくしま母子サポートネット所属保育士

PROFILE

東日本大震災後、横手市へ母子避難。避難時は県の避難者支援相談員として活動。帰還後、県内外避難者支援コーディネーターとして福島県内 12 か所にて、定期的に福島で子育てをする母親のためのサロン「ままカフェ」を開催。今年で 13 年目を迎える。また子育て世代を中心とした県外避難者家庭もサポートしている。

岩手県 (20 分)



南 景元氏

大槌町教育委員会
スクールソーシャルワーカー

PROFILE

韓国出身。2004 年、来日。2011 年、ボランティアで訪れた岩手県大槌町で「校庭も教科書もなくなった。だからこそ『子どもと教育』という原点に戻りたい」といった先生たちと、その思いに応えようとする子どもたちの姿に出会い、大槌町スクールソーシャルワーカーとして勤務。現在は、町が推進する「誰一人取り残さない学び『けやき共育』」を中心に公教育の可能性と希望を夢見ている。

パネルディスカッション

15:15~16:15

被災地の子どもの心のケアの今後に向けた意見交換

ファシリテーター



石塚 直樹氏

一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター理事
災害復興を契機とした地域づくりや当事者による省察・対話の場づくりに、コーディネートと研究の両面から取り組む。中越防災安全推進機構研究員、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科客員研究員などを兼務。主な共著書に『震災復興が語る農山村再生 地域づくりの本質』（コモンズ、2014）など。

パネリスト

清水 冬樹氏 / 前田 正治氏 / 八木 淳子氏
小林 純子氏 / 三浦 恵美里氏 / 南 景元氏



質疑・応答

16:20 ~ 16:30 (予定)

参加いただいた皆様から質問や意見交換をおこないます。

■お申込み

以下のいずれかの方法で事前にお申込みください。※申込締め切り / 11 月 4 日(火)

フォーム

<https://forms.gle/jrifqP75Df1BswQm7>

メール

✉ info@michinoku-design.org

次の①~⑥を本文にご記入の上、上記メールアドレス宛に送付ください。

- ①参加される方の氏名
- ②参加される人数
- ③所属
- ④連絡先（メールアドレス・電話番号）
- ⑤会場参加・オンライン参加のご希望
- ⑥当シンポジウムへ期待する事等ございましたら教えてください。

FAX

☎ 022-797-6788

※別紙の FAX 用紙より、必要事項をご記入の上お申し込みください。

シンポジウムの情報はコチラへも掲載しております。

<https://michinoku-design.org/>



※リンク又は二次元コードよりアクセスいただき必要事項を記入の上送信してください。